

グラウンドワークとは.....

市民・企業・行政がパートナーシップをとりながら、地域の環境改善などを行う活動です。あなたも、ぜひ活動にご参加ください。
(文中でグラウンドワークをGWと表記することがあります。)

通常総会の事前打ち合わせ

6月9日、GW三島の事務所で、令和7年度・通常総会の議事内容について打ち合わせた。参加者：小松幸子理事長、小野徹副理事長、渡辺豊博専務理事、中島一彦事務局長、美和将弘事業課長、山下美穂事務局員



昨年度の主要事業である源兵衛川の歴史や役割を子どもたちに知らせるための動画や漫画等を確認した。

本年度は大溝川の公園化と松毛川の河川整備工事への対応、水と緑を活かした水網都市・三島整備計画の策定などに取り組む。

令和7年度・通常総会・講演会・交流会開催

6月15日、三島商工会議所・TMOホールにて、グラウンドワーク三島の令和7年度・通常総会・講演会・交流会が開催された。

総会の議案は、第1号議案：令和6年度事業報告及び活動計算書承認の件、第2号議案：令和7年度事業計画及び活動予算書決定の件、第3号議案：評議員専任の件、第4号議案：その他で、いずれも賛成多数で承認された。特に、評議員選任については、長らくご尽力いただいた青木利治さんが退任され、新任として柴田英雄さんが承認された。

理事長：小松幸子 副理事長：小野徹 専務理事：渡辺豊博
理事：緒明春雄 石岡博実 真田大輔 松下重雄
監事：遠藤隆 春名薰
評議員：大田黒敦雄 林丈雄 河合孝彦 室伏強 李東勲 柴田英雄

本年度の事業実施方針は「水の都・三島の環境・地域資源を磨き上げて魅力的な回廊都市を創造すること」。

講演会は、基調講演「水の都・三島」水と緑を活かしたまちづくりへの提案」～源兵衛川・御殿川を巡る水辺の回廊都市創造に向けて～(渡辺豊博GW三島専務理事・元都留文科大学教授・農学博士)。英国のまちづくりの手法を紹介し、御殿川・大溝川・松毛川・四ノ宮川などの整備で、世界一の水の都・三島を創り上げることも提案。

交流会では、多様なアイデアの情報交換ができ、課題が多いが有意義な時間を共有できた。



能登半島地震支援活動「心を元気にするショートツアー」

(2025年度・第1回目 8/10~8/12 第2回目 9/13~9/15)

今年度の能登半島地震支援活動「心を元気にするショートツアー」は、第1回目を8/10~8/12、第2回目を9/13~9/15に実施。各回約40名が大型バスで三島に来訪。

第2回目の1日目は、伊豆の温泉や料理、マッサージ、読み聞かせ、ヨーヨーパフオーマーのショーを楽しみ、大人は被災地の現状や課題等を意見交換。2日目は待望の富士山登山。宝永噴火口まで富士山インストラクターのガイドで、全員が登り切った。快晴の中、壮大な絶景に歓声を上げた。午後は源兵衛川の水辺散策と川遊びや魚とりをインストラクターと楽しんだ。昔、汚れていた時代があったが今は美しい清流になった源兵衛川を、市民力で再生した努力に驚いていた。夜は、絵本漫談とマジック。マッサージも大好評で、自然がもつ心身への治癒力は絶大。3日目は三島北高の体育館で、三島北高演劇部による劇を鑑賞。



次は、知徳高校生の玉入れ競争とボール送りゲーム。子どもたちの元気な歓声が体育館に響いた。昼食後、アンケートや意見交換を行い、強い「絆」を確認してお別れ。参加者の晴れやかな顔から、富士山と源兵衛川の自然、人々との交流の効果を実感。10月の第3回目も「能登を忘ない」気持ちで支援活動を続けていく。

-1-

発行 特定非営利活動法人グラウンドワーク三島
〒411-0857 静岡県三島市芝本町6-2
TEL 055(983)0136 FAX 055(973)0022
URL <http://www.gwmishima.jp/>
E-mail : info@gwmishima.jp

日台交流・GWフォーラム

GW三島と台湾社区大学
暨南(きなん)国際大学による
地域創生とイノベーション・フォーラム

9月1日~2日、台湾の国立暨南国際大学の教授13名が三島市を訪れ、GW三島の活動実践地視察と今後のインターンシップ研修生の受け入れ等について意見交換した。2日は三島市民文化会館で日台交流・グラウンドワークフォーラムを開催し、台湾における地域創生やイノベーションの現状を各分野の専門家が紹介した。

また、8月4日~9月12日まで、GW三島で研修していた社区大学全国促進会のスタッフの研修報告も行われた。地域社会の多様な課題を解決していくための処方箋を見つけることは、台湾でも難しく、大きな命題になっている。

「議論よりアクション」を信条に活動を続けることで、成果・実績を確実に現場に残していくGW三島のノウハウに対して、台湾側の関心はとても高い。(P2へつづく)



▲登壇者や関係者は去りがたく記念撮影

登壇者

・開会の挨拶および国立暨南国際大学の紹介（国立暨南国際大学水沙連学院長、前副学長 江大樹 氏）

・話題提供①「国立暨南国際大学水連学院における地域創生の実践経験」（国立暨南国際大学地域創生・越境ガバナンス修士課程副教授 張力亞 氏）

・話題提供②「コミュニティ防災の構築と地域エンパワーメント」（国立暨南国際大学科学技術学院院長 陳皆儒 氏）

・話題提供③「グラウンドワークの日本連携とインターンシップ」（社区大学全国促進会秘書長 楊志彬氏 および同議題グループリーダー 柯穎瑄 氏）

後半はコーディネーターを渡辺豊博 GW三島専務理事が務め、参加者の多方面の発言もとり入れ、有意義な フォーラムにまとめた。



▲柯穎瑄さんが報告する様子



▲春名薰監事も台湾の方々と交流

吉行和子さんのご冥福をお祈りします

→9月10日に、吉行和子さんが逝去されました。渡辺豊博専務理事の著書『三島のジャンボさん』の帯に右の文章を寄せてくださいました。合掌

吉行和子
そこから広がる
対談も楽しいです。

ジャンボさんの肉声が
跳ねかえってきました。
水がきれいになります。
富士見奈美さんとの
日本が元気になる活動、

蟹が戻ってくる
そこから広がる
素晴らしいです。



源兵衛川についての「出前授業」

7月1日、三島市立南小学校4年生を対象に「出前授業」を行った。源兵衛川の歴史、農業用水としての役割、世界かんがい施設遺産としての価値、生態系の重要性、環境再生の取り組みなどについて説明した。新しく作成した動画や漫画・パンフレットを活用。講師は渡辺豊博専務理事、河合孝彦評議員。

子どもたちからは

「三島に世界遺産があるんだ」「汚れた川をよくここまできれいにしたなあ」「川の中の散歩道も工夫して造られているんだな」など様々な感想がきかれた。



各大学や海外等から、GW三島の視察とフィールド体験



★6月4日、千葉大学大学院融合理工学府創生工学専攻・建築学コース都市計画系松浦研究室の17名が来訪。山口東司インストラクターの案内で、源兵衛川一雷井戸一三島梅花藻の里を視察。その後、GW三島事務所で質疑応答。渡辺豊博専務理事が、まちづくりには、戦略的発想と情熱的アクションが必要であることなど、源兵衛川水辺再生のプロセスを通して伝えた。



★6月6日、カナダの建築研究所を中心としたメロン財団の研究員13名（カナダ5、イギリス2、ポーランド1、ケニア1、日本4）が、源兵衛川を視察。渡辺専務理事の解説で、街中に自然度の高い水辺空間が存在していること、そのデザインのコンセプト、エコロジーアップ、パートナーシップの発想に驚いていた。



★6月7日、立教セカンドステージ大学の学生14名が、GW三島のフィールド体験。鏡池一白滝公園一小浜池一源兵衛川一雷井戸一三島梅花藻の里を回った。午後は松毛川で下草刈りを体験、境川・清水緑地も視察。GW三島事務所で交流会を開催。次の人生の生き方や社会参加の方法等を模索している人たちの参考になったようだ。7月5日には視察と松毛川の「三島桜の里」の下草刈り。7月18日には授業が終了。



★6月14～15日、早稲田大学創造理工学研究科景観・デザイン研究室の学生5名がGW三島・視察研修体験1日目は、山口インストラクターの案内で、源兵衛川一雷井戸一三島梅花藻の里一御殿川一腰切不動尊一みしま未来研究所一桜川一鏡池一菰池などを回り、景観デザインのコンセプトや狙いを学んだ。その後、GW三島や英国グラウンドワークについての講義と意見交換、交流会。2日目は大場里山地区や松毛川千年の森植林地の下草刈りを体験し、GW三島の通常総会・講演会に参加。「現場主義の大切さ、強い愛郷心が活動と発意の基盤、合意形成の難しさとプロセスの重要性などを学べた」との感想を述べた。



★6月21～22日、青山学院大学ボランティアグループ「SHANTI SHANTI」のメンバー29名がGW三島フィールド体験に参加。1日目は、浅間神社神池一白滝公園一源兵衛川一雷井戸一三島梅花藻の里を山口インストラクターの案内で視察。梅名地区で中郷用水土地改良区の白井幸太郎元理事長の指導により、「ゆめみしま」の田植え体験。2日目は、大場里山地区メダカ池周辺の草刈り。まちづくり、NPO活動の講義と意見交換。午後から、松毛川千年の森づくり・植林地の下草刈りを行い、今回の活動の振り返りとまとめを行った。両日とも猛暑での活動に感謝。社会的課題の解決には、地道な活動を支える人と現場での活動の積み重ねが重要だと伝えた。



縁あって三島で「前向きの充実した人生」を

GW三島せせらぎ環境案内人・インストラクター

みやうら まさひろ

宮浦 雅弘さん (三島市佐野見晴台在住) 【寄稿】

昭和27年(1952年)11月、広島市生まれ。小学6年時に父の転勤で家族で上京し、当時の東京都北多摩郡保谷町(今の西東京市)で中、高、大学そして社会人と約20年間過ごした。趣味らしい趣味はないが、長く続いているのはサッカーで、高校、大学から社会人チームで

プレーそして40歳過ぎて大学の仲間と草サッカーに興じ、毎年5月には御殿場時之栖での1泊のサッカー&温泉&地ビールの合宿が楽しみになっている。今年5月には九州は福岡に遠征し、かの地の同世代(70歳台)全国大会出場の強豪チームと対戦し、完敗するももう少し鍛錬すればよい試合ができると励みになった。

就職、結婚を経て、長男、次男が誕生した。子供特に長男には重いアトピー性皮膚炎があり、どんなに手袋や包帯をしても外して搔いてしまい眠れない状態が続き、何とかしてやりたい一心だった。転地療養も考えていた中、ある時NHKの特番で、立川の医師が「海へ連れて行くとアトピー性皮膚炎が良くなる(海水と海風が効果がある)」と言うのを偶然見て、「三島なら海に近い事」「サッカー仲間の親友の母親の里が三島で、三島の川の水がキレイ三島はいいと度々聞いていた事」そして「会社に新幹線通勤制度が出来た事」の3つの要因が重なって、東京から三島に移住を決めたのが1992年の春。川は親友の記憶と経験が昭和30年代前半あたりのことで、キレイと思った記憶もないが、子供を毎週末沼津の千本浜に連れて行った結果、半年経った頃にはアトピーは良くなり皮膚科にも通わなくなったのは、縁もゆかりもない三島への移住は大正解だった。

三島の街は、程よいサイズで、山あり、川あり、海にも近い。水も空気も美味しいので気に入って、移住1年半後今の佐野見晴台に40歳の時に新居を構え永住を決意。東京への新幹線通勤は定年の60歳まで20年間続いた。会社と自宅の往復で週末は自分のお遊び(サッカー、畑)や子供のスポーツの応援に時間を費やし三島の事をろくに知らないまま来てしまった。後に、この町の自治会回覧板か新聞ちらしかで、グラウンドワーク三島の「せせらぎ環境案内人」の養成講座が開講されることを知った。コロナ禍であつたし、暇もできたら改めて三島の事をもっと知ろうと思い、簡単な気持ちで申し込んだのが2021年夏。8回のオンライン講座を受講し、三島梅花藻の里と松毛川での実習を終了し晴れて11月に資格取得の修了証をいただく。2021年12月からは、毎週木曜日の午前中に三島梅花藻の里へ行き、ミシマバイカモの世話をしている。師匠の山口東司さんから、ここの存在意義や誰かが手入れをしないと絶滅してしまうこと、手入れの仕方等たくさんのこと学んだ。

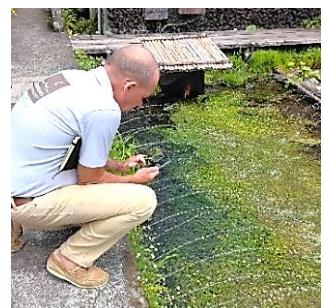


▲環境出前授業で子どもたちにタモ網の使い方を説明

▼GW三島が招待した能登半島の被災家族の方々と源兵衛川で生き物観察のサポート



2025年5月、白ユニフォームの前列右端↑が宮浦さん



▲三島梅花藻の里も案内

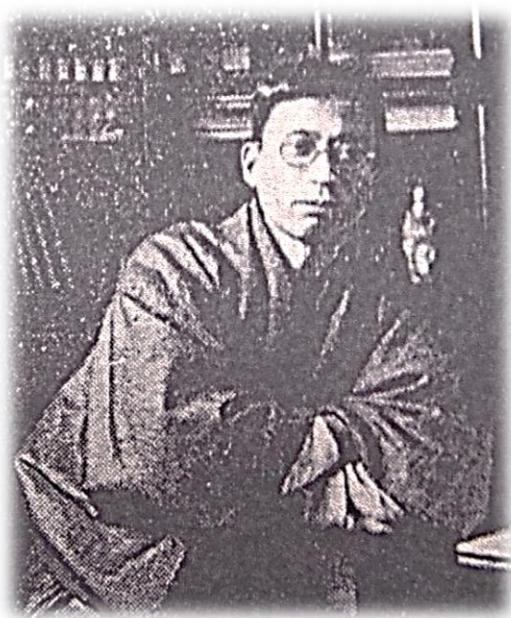


▲寿司と日本酒で祝再会

若い頃私はドイツに在留経験があり、ドイツ人との交流も続いている、今年6月にその一人が約10年ぶりに来日し三島に2泊してくれた。前2回の来島では富士山や伊豆方面に出かけたが、今回は「せせらぎ環境案内人」として源兵衛川を中心に三島市内を案内できたことが嬉しかった。また彼はドイツ人でありながらアフリカのウガンダという国でバニラやカカオの栽培をする農園を経営していて、農園内に数か所ある泉を利用して稻作をしたいという計画があり、伊豆佐野の知り合いの水田を視察したり、源兵衛川の歴史や役割そして中郷温水池の役割等、源兵衛川に関係する事柄を熱心に見聞してくれた事が印象深い。

GW三島の活動は、たくさんある中の一部に携わっているが、普段なら接するがないような孫世代の子供たちと環境出前授業で会ったり、能登の方々を源兵衛川に案内しくつろぎと癒しの時間を持ってもらったり、そして源兵衛川や三島梅花藻の里の保全活動に参加する等貴重な体験をさせてもらっている。できる範囲でゆっくり地道に続けていきたい。教養(今日用がある)と教育(今日行く所がある)以上のGW三島であるようだ。

正面から取り組んだ物理学の未知の世界

さかい たくぞう
物理学者 坂井 卓三

▲『三島市誌 拠刷 1959年 中巻』(人物)に掲載された坂井卓三の写真。
「宮町宮内幸衛氏蔵」とある。

明治33(1900)年、三島宮町(現・三島市大宮町)に生まれる。三男であったが、兄二人が早世したため、家を継ぐべく幼児から厳しく育てられた。三島尋常小学校、県立蘿山中学校(現蘿山高校)、旧制名古屋高等学校を経て、大正10(1921)年、東京帝国大学理学部に入学、物理学を専攻した。大正13(1924)年、卒業と同時に同理学部の助手に任用される。大正14(1925)年、同大学工学部の講師になり、翌年、助教授に昇進。昭和3(1928)年、理学部兼務となった。翌年、理論物理学第一講座担任となり理学部勤務に転じた。昭和10(1935)年、理学博士の学位を取得し、同14(1939)年、教授に就任、理論物理学第二講座を担任。38歳の時である。翌年には、大学在職のまま小林理学研究所(将来の科学技術振興のための理論的研究所)の研究員も兼務した。

生真面目な卓三は、物理学の未知の世界と正面から取り組み、一途に研究に没頭した、研究テーマを見つけると、学会の流行などには目もくれず、自分自身が納得するまでじっくりと時間をかけて考えた。彼の仕事は地味だったが、その一つ一つが物理学の発展のために避けて通れないものばかりであった。

この時代は、古典的な理論物理学が現代の理論物理学へ移行する境目で、卓三が、講座で講じた量子論は、古典的理論に基づいて波動・振動をとらえ、電波や地震波の問題を解明したもので、彼の初期の業績とされている。同15(1940)年以降、ゴム状物質の弾性の本質を明らかにし、さらに高分子物質の問題を掘り下げた。当時まだ物理学に組み入れられていなかった高分子論を初めて理論化した研究だった。彼はすでに東大理学部のみならず、日本の物理学会の権威となっていた。

その人物について、弟子の市村浩(後の東京工大教授)は「先生は、まさに一学究として徹底しておられた。また、そうあるべく絶えず努力してこられた。学問のこと以外にはあまりこだわらなかった。先生と弟子の関係も、世の常識的な子弟関係とはかなり違っていた。先生はどんな駆け出しの研究者に対しても、ともに物理学を研究する仲間として対等に遇された。先生の周囲にはいわゆる学派はできなかったが、先生が身をもって示された物理学研究者としての真の姿は、接する者的心に深い感銘をあたえ、永く心の光明となる風であった」と述べている。

卓三の著書は、『熱力学』『量子論』『熱輻射』『統計力学』『量子力学序説』『熱学の理論』『一般力学』『高分子物質』『初等力学』など多数。

昭和29(1954)年、東大教授現職のまま死去。享年53。没後、正三位勲二等瑞宝章を贈られた。三島市大社町の成真寺に墓がある。



▼墓所のある成真寺(じょうしんじ)

参考資料:

『三島市誌 拠刷 1959年 中巻』(人物)
『群像いづ』 静岡新聞社 永岡治著
ウィキペディア

北条時政の部下であった平成真(たいらのしげさね)が時政の死を悲しみ22歳で出家し、高野山で真言宗を修めた、安貞(あんてい)元(1227)年に富士郡桶野口村に寺を構えたのが初めという。

その後、箱根権現参詣のとき、親鸞聖人に会って浄土真宗に改め、現在地(三島市大社町)へは江戸時代初期に移った。



映像表現や情報発信で持続可能なまちづくりを！

【寄稿】合同会社KUREBA
関 幹太さん

三島市の芝本町で動画制作やWEBマーケティングを手がける会社を運営しております。生まれは三島市ですが、一度地元を離れ、数年後にUターンしました。戻って改めて感じるのは、三島というまちの豊かな自然と人の温かさ、そして湧水の恵みを中心に育まれてきた独自の文化です。

NPO法人グラウンドワーク三島との最初の関わりは、動画制作の仕事を通じてでした。同じ芝本町に拠点を構えながらも、それまで団体の活動内容を深く知る機会は多くありませんでした。

実際に依頼され、源兵衛川をはじめとした取り組みを取材・映像化するなかで、富士山の湧水を守りながら地域資源を活かし、人の流れやにぎわいを創出してきた歩みを知ることができました。それは私自身にとって、ただの映像制作にとどまらず、「このまちがどう発展してきたのか、そしてこれからどうあるべきか」を考えるきっかけにもなったと感じています。

趣味は釣りやアウトドアで、自然の中で時間を過ごすことが多いのですが、その原点にあるのはやはり水の豊かさです。清流に触れるたび、三島の魅力をもっと多くの人に知ってもらいたい、体感してもらいたいという思いが強くなります。動画やSNSを通じてその一端を発信することは、私にとって大きなやりがいです。

これからは、制作者としての立場だけでなく、一市民としてもグラウンドワーク三島の活動に関わっていきたいと思っています。次の世代にこのまちの魅力を引き継ぐために、映像表現や情報発信で貢献できることは多いはずです。源兵衛川をはじめとする地域資源の物語を伝え、人が集い、語り合うきっかけをつくる。その積み重ねが、持続可能なまちづくりにつながると信じています。



地域の魅力が詰まった活動 大きな社会貢献を少しでも支えて

【寄稿】NPO法人GW三島事務局員
山下 美穂さん

2022年にGW三島に入社し、今年で3年目です。沼津に転居してから長年勤めていた金融機関を退職し、以前からの希望であった経理の仕事を目指して職業訓練校に通い、簿記の資格を取得しました。その後、前職の経験と資格を活かせる仕事を探していましたところ、GW三島の経理・総務募集の求人と出会いました。面接の際に、掲示されていた源兵衛川や三島梅花藻の里の活動紹介を見て、この団体が環境保全に深く関わっていることを知りとても感銘を受けたことを覚えています。

入社後は経理・総務の仕事に加え、米の精米発注や販売、野菜そばの販売などにも携わっています。事業では、富士山バストourや田植え・稻刈り体験、源兵衛川の生き物観察、松毛川の野鳥観察、そば打ち体験など地域の魅力が詰まったイベントがあり、私も息子と一緒に参加し貴重な経験をさせていただいております。

また、令和6年1月の能登半島地震の際には、渡辺豊博専務理事がいち早く現地に赴き、状況確認と支援方法を検討しました。その後、募金活動や助成金申請を通じて「心を元気にする交流ツア」として能登の方々を三島に招待し、これまでに延べ240名以上の方々をお迎えしています。

GW三島は少人数の団体ながら、多くの助成金を獲得し、また栄えある賞も受賞しています。国内外から学生や一般の方々が視察に訪れ、幼稚園や小学校での学習活動も行なうなど、環境再生、地域振興、人材育成に大きく貢献しています。

私は直接事業に携わることは少ないものの、近くで活動の広がりと意義、そして社会的貢献の大きさを日々実感しております。今後もできる範囲でGW三島の活動を支えていきたいと思っています。

パッショントピック No. 53

4回の能登半島地震支援のショートツアーに参加し「出会いに感謝」

学校連絡網で「能登半島地震活動支援 子どもを元気に富士山プロジェクト～心を元気にするショートツアー～」という文字を見たとき、すぐにチラシを開きました。これまでに計4回参加しました。

知徳高校アメリカンフットボールとのスポーツ交流では、アメフト部が体を動かせるような簡単なメニューを用意してくれ、子どもたちと一緒にそのメニューを行ったり、しっぽ取りを行いました。来てくださったお母さん、お父さんたちに「ここにちは！」と声をかけると、皆さん必ず言るのは「マネージャーですか？」と言われたのは今ではっきり覚えています。知徳高校校内ウォーキングでは、構内にクイズを隠し、ハンターから逃げながらクイズを解いていくというゲームをしました。この回からリーダーをさせていただき、参加スタッフへの指示出しなどを行いました。参加賞として飴のつかみ取り（左下写真）を行い、お子さん限定で順番に並んでいただきました。みゅうくんホールで行ったスポーツ交流（右下写真）では、ミニ運動会を考えていきましたが大雨の影響で1種目だけになりました。三島北高校の演劇部が盛り上げてくれたおかげで、その後の活動も盛り上がっていきました。

計4回のショートツアーに参加してみて共通していることは、能登の方たちはみんな思いやりがあって笑顔が素敵な人がいっぱい居たということです。アメフト部の交流で初めて参加した方が前々回のショートツアーに2度目の参加をした方にお話を聞いてみるとアメフト部の交流に私がいたことを覚えていてくれました。

能登半島に実際に行けなくても、このショートツアーは災害ボランティアに分類し、被災

地に行って家財を運んだりお話を聞いたりするだけでなく、別の場所に行って心のケアをすることも大切なんだと感じたボランティアでした。ショートツアーに参加するスタッフの方には、能登の方たちが楽しめるようなプログラムを考えてほしいです。出会いに感謝



3年NA組 中島 知菜実

GW三島の活動記録 2025年6月1日～2025年9月30日

月 日 曜	事 業 名	内 容	場 所	人 数
6 7 土	「ゆめみしま」田植え体験	田植え体験	梅名地区水田	30
6 15 日	GW三島通常総会	通常総会	TMOホール	30
6 15 日	同上	講演会	TMOホール	50
6 15 日	同上	交流会	TMOホール	20
6 17 火	加和太建設新規採用職員実地研修	ミシマバイカモの湧水池への移植	境川・清住緑地	30
6 28 土	鎧坂ミニ公園ワンディチャレンジ	草刈り	三島市鎧坂ミニ公園	3
7 10 木	三島梅花藻の里ワンディチャレンジ	草刈り、ミシマ梅花バイカモ	三島梅花藻の里、緑と水の杜	8
7 12 土	腰切不動尊・清掃活動	御堂と周辺の清掃、草刈作業	腰切不動尊	10
7 12 土	三島梅花藻の里ワンディチャレンジ	草刈、樹木の選定	三島梅花藻の里、緑と水の杜	5
7 24 土	三島梅花藻の里ワンディチャレンジ	草刈、樹木の選定	三島梅花藻の里、緑と水の杜	5
7 30 水	雷井戸ワンディチャレンジ	草刈り、水草除去	雷井戸	4
8 1 金	松毛川千年の森づくり	耕作放棄地の草刈り	松毛川	5
8 10 日	～12能登半島地震支援活動「心を元気にするショートツアーア」	2025年度第1回「心を元気にするショートツアーア」	三島市、伊豆、富士山周辺	38
8 18 月	大場里山ワンディチャレンジ	草刈り、野鳥観察	大場里山	11
8 19 火	松毛川千年の森づくり	下草刈り	松毛川	12
8 20 水	大場里山ワンディチャレンジ	竹林伐採・チップ化、水生生物観察会	大場里山	20
8 21 木	大場里山ワンディチャレンジ	竹林伐採・チップ化	大場里山	20
8 29 月	「鎧坂ミニ公園」の草刈り	草刈り	鎧坂ミニ公園	3
9 2 月	日台交流・グラウンドワークフォーラム	講演、パネルディスカッション	三島市民文化会館	40
9 12 金	松毛川千年の森づくり	竹林伐採、下草刈り、草刈放棄地の草刈り、野鳥観察	松毛川	20
9 13 土	～15「心を元気にするショートツアーア」	2025年度第1回「心を元気にするショートツアーア」	三島市、伊豆、富士山周辺	44
9 25 木	三島梅花藻の里ワンディチャレンジ	草刈、ミシマバイカモの手入れ	三島梅花藻の里、緑と水の杜	6
9 27 土	三島そば種まき体験	そばの種まき	元山中圃場	8
9 28 日	腰切不動尊例祭	御堂の清掃・読経	腰切不動尊	5

（源兵衛川環境出前講座）6/17 三島市立北上小学校 60名、6/18 三島市立南小学校 82名、6/25 三島市立徳倉幼稚園 9名、7/1 南小学校 4年 79名、7/3 三島市立南幼稚園 10名、7/9 三島市立加茂川町保育園 36名、8/8 飛龍高校三島スクール 40名

（定例作業）★三島梅花藻の里 18回 ★源兵衛川 4回 ★鏡池ミニ公園 4回
★桜川 4回 ★境川・清住緑地愛護会 4回 ★雷井戸 4回

（定例会議）★編集会議 8回

（募金活動）★東日本大震災 ネパール地震 熊本地震 大阪北部地震
松毛川の森を守る募金 西日本豪雨災害 能登半島地震支援募金
能登半島豪雨災害支援募金 随時

（署名活動）★三島駅南口「水の都・三島」を財政破綻と魅力破壊から守る署名活動 随時

富士吉田商工会議所で講演

6月18日、富士吉田商工会議所・振興委員会主催のセミナーで「自然と水を活かした富士吉田のまちづくり」についてGW三島渡辺豊博専務理事が講演。そのまちの価値と魅力を市民の主体性により探し出し、付加価値をつけ、環境・地域資源として活用・再利用し、市民創意に基づく、斬新な水のまちが創造できる。資源・動態調査などを実施し、新たな視点で富士山を背景にした水のまちを創ることができるだろう。

三島も水のまち。GW三島が先導役になり、源兵衛川や境川・清住緑地、三島梅花藻の里などは人気のスポットになっている。

台湾の社区大学全国促進会から来訪されていた柯（か）さん、40日間の研修を完了



8月4日から9月11日まで、柯さん（柯穎瑄）は、主として『グラウンドワーク台湾・実践マニュアル』の校正・編集を行い、GW三島の多数の事業にも参加。帰国後の活躍を期待している。

境川・清住緑地で、草刈りやミシマバイカモの移植などを実施



6月17日、境川・清住緑地で、土手の草刈りとミシマバイカモの湧水池への移植を、加和太建設（株）の新規採用職員の実地研修も兼ねて行った。

整備経過や技術的な工夫、環境に配慮した工事方法など先進的な取り組みについて説明。現場事情に即した工法の選定や技術的改良点を積極的に提案し、思いのこもった物づくりの大切さを伝えた。自分が関わった現場を時々訪ね、評価を再確認し、振り返ってモニタリングする必要性も伝えた。参加者全員でミシマバイカモをプランターへ移植し、湧水池に沈めた。今後数ヶ月で、全面に白い花が咲き乱れるだろう。



視察来訪者記録 R7.6.1～9.30

月 日	視 察 団 体	人 数	地 域
6 4	千葉大学都市計画研究室	17	千葉県
6 6	メロン財団	13	カナダ
6 7	立教大学セカンドステージ	14	千葉県
6 14	～15 早稲田大学	4	東京都
6 21	社会貢献支援財団	3	東京都
7 5	立教大学セカンドステージ	17	東京都
8 5	東京大学工学部都市工学科	45	東京都
8 18	～19 長野大学環境ツーリズム学部・松下重雄ゼミ	9	長野県
8 20	～21 都留文科大学	8	山梨県
8 28	東京農業大学	14	東京都
9 1	～2 台湾国立暨南国際大学	13	台湾
9 6	～7 インカレSDGsプロジェクト	15	東京都
9 11	東京都市大学環境学部環境衛生学科・横田研究室	16	東京都
9 12	都留文科大学	4	山梨県
9 18	東京都市大学環境学部・後藤研究室	15	東京都
9 18	台湾南投県水利省	5	台湾
9 28	川とまちを考える会	27	東京都

「ゆめみしま」田植え体験

6月4日、梅名の田んぼの代掻き作業を、GW三島スタッフとボランティアの協力で行った。

6月7日、中郷用水土地改良区の白井幸太郎元理事長の指導のもと、農業用水や田んぼの役割、米生産のプロセスや苦労、苗の植え方と注意点を聞いて作業に取りかかった。今後、田の草取り、収穫、乾燥、脱穀などの農業体験を計画している。

子どもたちへの体験型現場教育の機会を増やし、しっかり管理して、おいしい「ゆめみしま」を能登の被災者にも届けたい。



「水、街、つながりフォーラム 2025」で講演

6月21日、一般社団法人三島青年会議所が主催する「水、街、つながりフォーラム 2025」が LtG Startup Studio (三島市大社町) にて開催された。第1部では、渡辺豊博GW三島専務理事が講演した。内容は「水と緑を活かしたまちづくり」をテーマに、三島の水と暮らしの歴史、源兵衛川再生ストーリー、市民と企業との関わりから始まり、水の価値を活かしたまちづくりの未来についてなど、写真を示しながら語った。第2部では、地域リーダー、一般参加者、各団体などによるグループワークが行われ、活発な意見が交わされた。



御園地区の耕作放棄地の草刈り



8月1日、35℃の酷暑の中、草刈りを行った。汗だくの作業、しかし取り組み前後の景色が

一変し農地が蘇った。この達成感が、参加者の「やりがいモチベーション」だ。長く放置された農地も人が入り、耕運すれば美田に戻る。GW三島は今後、段階的に耕作放棄地を農地に戻し、農業用施設を再整備し、用水ポンプを再稼働させ復田させ、ふるさとの田園景観を再生していく。



「雷井戸」と周辺整備作業

7月30日、外気温33℃の暑い中の作業。江戸時代からある元簡易水道の水源である巨大井戸。井戸の中では水草が繁茂してしまい、湧水噴出の迫力が見学出来なくなってしまった。そこでGW三島のスタッフが、井戸の中に入り水草を除去し、熊手で底をかき回して溜まっている土砂を流し出した。今後ともしっかりと維持管理していく。

「鎧坂ミニ公園」整備作業

6月28日と8月29日には、整備作業を行った。かつては、ごみの放置が絶えない場所だったが、文教町2丁目の住民と共に、街中での憩いの場所となるミニ公園を造り上げた。現在は住民の高齢化により、GW三島が主担当になり整備を続けている。



「三島アメニティ大百科・別冊付録 No.18」 「東レアローズ静岡」

「東レアローズ静岡」は、令和6(2024)年にスタートした日本バレーボールのトップリーグ「大同生命SVリーグ」に所属する男子バレーボールチーム。現在までオリンピック選手や全日本選手を輩出している。

起源は昭和22(1947)年、東洋レーヨン(現・東レ)滋賀事業場(大津市)にて創設された9人制バレーボールチームである。チーム名は「東レ九鱗会」、9人制とV字型に兵を配置する陣形「魚鱗の陣」に由来する。昭和30年代には、9人制と6人制において、全日本都市対抗大会(現・黒鷲旗大会)などの大会で、優勝を重ねる。その後、6人制バレーボールチームになり、昭和39年に本拠地を同社三島工場へ移転する。

平成3(1991)年、社内公募により新たなチーム名が誕生する。「東レアローズ」には「矢のような鋭さ」という意味が込められている。長い間優勝から離れていたが、平成13(2001)年、遂にVカップで東レアローズとして初タイトルを獲得する。以降、黒鷲旗大会などで10回以上優勝を果たす。令和6(2024)年6月、世界最高峰のリーグを目指すSVリーグへの参入に伴い、チーム名を「東レアローズ静岡」に変更する。翌月、男女それぞれの「東レアローズバレー部」を法人化させ「東レアローズ株式会社」(本社・滋賀県)が発足する。

最近のバレーボール人気もあり、大型ショッピングモールでの決起集会や新ユニフォーム発表会には多くのファンが集まる。また、バレーボール教室の開催や地域イベントへの参加など、スポーツの振興、地域活性化にも貢献している。練習場所は、東レ総合研修センター横にある体育館。ホームゲームは、三島市民体育館(ホームアリーナ)、他に香陵アリーナ(沼津市)、このはなアリーナ(静岡市)で開催される。チームメインカラーは青、東レブルーのユニフォームやタオルを身に着け、没入感のある応援を楽しんでみませんか。



三島梅花藻の里・整備作業

猛暑で湧水池の水温が上昇し、大量のヌクが発生。汚れを丁寧に掃き出し、生育環境を整備。湧水池周辺の草を刈り、歩道周辺の枝葉を剪定。来訪者の言葉に励まされ、暑さと闘いながら作業を行った。

8月7日には、台湾からのインターナショナル研修生と芝川中学校の生徒2名が参加し、源兵衛川の水の散歩道の草刈り作業体験も行った。定例整備作業は毎週木曜日10時から。実施日 6/5、19、7/10、7/12(午後1時から)、7/24、7/28、8/7、9/11、9/18、9/25



三島市内の写真集



撮影者: やまぼうし
撮影場所: 三島大社大鳥居前
撮影日時: 2025/8/15 19:49

ひとこと: 三島大祭り恒例

「山車競り合い」に集まって来た当番町の山車。山車から一斉にシャギリの音が響きわたると祭りはさらに盛り上がりを見せていた。

【投稿方法】撮影者の氏名、住所、電話、撮影場所、撮影年月日にひとこと添えてEメールに添付し、GW三島事務局まで。Eメール: info@gwimishima.jp

東京都市大学環境学部・ 台湾南投県水利省が視察に

9月18日、東京都市大学環境学部後藤研究室15人を小松幸子理事長が案内し、台湾南投県水利省関係者5人を中島一彦事務局長が案内した。源兵衛川、雷井戸、三島梅花藻の里を回り、「緑と水の杜」の緑蔭で渡辺豊博専務理事がGW三島によるまちづくりと源兵衛川のデザインづくりのノウハウ等について説明し質疑も受けた。



「環境は簡単に壊されてしまう。勇気ある迅速な行動無くして保護・保全はできない。市民力には限界があり行政の理解と支援無くして再生できない。環境保護運動を進めていくには強い覚悟が無ければ挫折する。環境資源を保全・活用すればまちづくり・活性化の資源にプラスアップする。環境マネジメントの専門性とスキルがないと持続的な闘いはできない。現場での活動無くしては地域の変革・再生無し。成果を残し続けることで信用力を醸成する。現場力は座学からは学べない。実践の蓄積が地域を変える原動力だ」と力説。

グラウンドワーク三島編集室

浅井 一哉 河田 恵美子
岸野 和子 城所 徒帝
小松 幸子 佐々木 覚
相馬 幸永子 前田 充子
山崎 多紀子 山田 勝造
(五十音順)

GW三島事務局担当: 美和 将弘

ご寄付をありがとうございます。募金の趣旨を生かして大切に使わせていただきます。

*東日本大震災支援募金
*ネパール地震支援募金
*熊本地震支援募金
*大阪北部地震支援募金
*松毛川の森を守る募金
*西日本豪雨災害支援募金
*能登半島地震支援募金
*能登半島豪雨災害支援募金

「街中だがしや楽校・ 源兵衛川探検クイズ」を開校

8月24日、三島大社境内で「街中だがしや楽校・源兵衛川探検クイズ」を開校。32°Cの猛暑の中、180人近い親子がクイズに答え、えびす券をゲットした。

早朝、源兵衛川で魚類やサワガニ、ミシマバイカモを採取して水槽に入れ、見てもらったが、こんなにもたくさんの生き物が、源兵衛川にいるのかと驚いていた。山口東司インストラクターの生き物解説、門倉京子サポートの準備と取り仕切り、河合孝彦さんの子どもたちへの投げかけ、事務局の美和将弘さん、山下美穂さん、仲田芳文さんの頑張りで大成功だった。今後も、三島の魅力と宝物の価値を分かりやすく子どもたちや市民に伝えてい



東京大学工学部都市工学科から視察來訪

8月5日、東京大学工学部都市工学科の45名が、GW三島を視察。まず、源兵衛川、雷井戸、三島梅花藻の里を視察し、その後、GW三島事務所で渡辺豊博専務理事が講義。

「①議論よりアクションの重要性 ②社会的課題は現場にあり現場に出向き行動しないと社会を変えることはできない ③まちは市民のものであり市民が主役 ④戦略的・長期的な視点無くしてNPOやまちの持続的な発展はあり得ない ⑤上からの目線では市民意識との乖離が起こる ⑥GW三島の手法はボトムアップアプローチ・下から上への現場主義 ⑦源兵衛川のデザインコンセプトは人と自然との共生の仕掛けづくり」等、立ったままで1時間近く質疑応答を含め力説。



長野大学から視察体験研修

8月18日～19日、長野大学環境ツーリズム学部・松下重雄教授のゼミ生8名が視察体験研修に来訪。★1日目は、大場里山・メダカ池周辺の草刈り作業、滝道雄先生の野鳥観察会、三島梅花藻の里、源兵衛川でのチャン欠け拾い、水辺空間デザインの見学、事務所で講義。夜は本音トーク・交流会の開催。★2日目は、松毛川の講義。松毛川千年の森づくり・三島桜の里下草刈り、境川・清住緑地の視察、研修のまとめ・質疑応答。「現場に真理あり。多様な現場経験が人を実務的に成長させる。体験と失敗の蓄積なくして言葉に力なし。まちの魅力を認識する努力を続けること」等を学生たちに伝えた。

